

第三回「こども学」区民公開講座

こどもの育ちを考える3

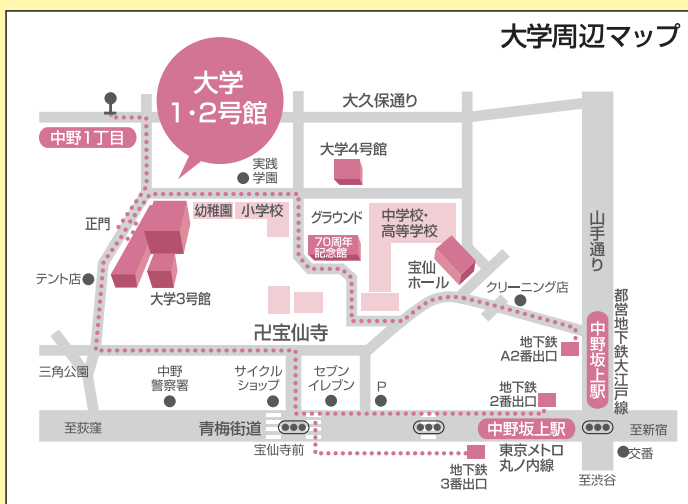


～こどもを育む家庭と社会に求められること～

- 開催日時 2013年12月7日(土)
13:00開始 ~ 16:00終了
- 会場 こども教育宝仙大学 1号館 131教室
- 申込対象 中野区民(区情報誌ないせすにより公募)と宝仙学園父母
- 申込期間 2013年11月1日(金)~29日(金)
- 申込方法 往復はがきによりお申込み受付

受講者氏名、住所、電話番号をご記入の上、下記申込み先宛てご送付ください。
返信用はがきを受講票として返送いたします。なお、応募者多数の場合は
抽選となりますのでご了承ください。

- 後援 中野区



●お申込み・お問い合わせ

こども教育宝仙大学 公開講座係

164-8631 中野区中央2-33-26

TEL 03-3365-0267 FAX 03-3365-0269

第三回「こども学」区民公開講座 こどもの育ちを考える 3

少子化の中でのこどもの育ちが注目され、本学が地域と地域のこどもたちに果たす役割と期待は大きくなっています。こどもに関する研究内容を広く区民に公開し、幼児教育・保育・子育てに関するさまざまな学びを共有できる場所として「こども学」区民公開講座を開催します。

講義は本学の教員が担当します。初冬の半日、こどもはどのように護られ育つのか、各専門分野の教員の授業を聞いてみませんか。



山本 秀行 学長

開会挨拶 「異文化としてのこども」

これまで「こども」は、どのように見られてきたのだろうか。わたくしたちは、いまの時代、「こども」をどのようにとらえているのだろうか。「愛情」と「発達」というキーワードに注目することで、近代が作りだしてきた「こども観」について考えてみることにいたします。

文学修士／(著)『ナチズムの時代』ほか



高津 勝 教授

「子どもたちが担う地域の希望：一揆の里・旧日吉村の相撲行事」

愛媛県北宇和島郡の山間の小村・旧日吉村（現・鬼北町）には、さまざまな相撲民話が語り継がれていて、その1つに六地藏に奉納する相撲の話があります。長らく地域の青年や近隣の素人力士を集めて盛大に行われていましたが、1960年代後半以降の過疎化の進行に加え、近年の少子高齢化は、この相撲行事を大きく変化させました。子ども相撲が主役に踊り出たのです。それは何を意味するのか。人びとはなぜ地相撲の継承・存続にこだわるのか。こうしたことを、日本社会のあり方とかかわらせながら、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

体育学修士／(著)『スポーツ社会学の可能性：歴史・身体・社会を探る』ほか



上村 宏樹 専任講師

「虐待を受けた子どもの理解～児童養護施設の現場から」

児童虐待は身近に起こっている問題であり、また多くの事件や「問題行動」の背後には児童虐待があると言われていています。この講座では、虐待を受けたこどもたちをどう理解するのか、われわれ一人ひとりに何ができるのかを考えていきます。熊本県で児童養護施設の指導員として働いていた経験から、「赤ちゃんポスト」の現状と育児放棄、ネグレクトによる児童虐待がなぜ起きるのか、虐待を受けた子どものサポートはどのように行われているかを報告します。

発達心理学修士／(著)『“共に生きる場”の発達臨床』ほか



佐藤 有香 専任講師

「保育現場における子育て支援のさまざまな取り組み」

近年、核家族化や都市化の影響により地域において家庭が孤立し、子育てを困難にしている現状がみられます。その中で、幼稚園、保育所は子育て家庭に対する支援の役割を果たすことが求められています。幼稚園、保育所など保育実践に携わってきた経験から、保育現場ではどのような子育て支援に取り組み、地域の子育て支援はどのような活動を行っているか紹介します。

児童学修士／(著)『保育者における幼児理解の視点と個人的特性—経験年数の違いによる比較—』

